

鈴鹿市立石薬師小学校		NO. 2	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
地域と連携した教育	1 「信綱カリキュラム」の活用 →「信綱カリキュラム(短歌作り)」を全学年で行う 2 地域学習・キャリア教育 →地域人材の活用 3 異年齢集団で社会形成能力の育成 →児童会活動・たてわり班活動 4 コミュニティスクールの推進 →学校運営協議会開催 5 保護者・地域への発信 →学校通信の配布 →保護者アンケートで検証 (成果と課題) 達成状況を含む		
	1 「信綱カリキュラム」の活用 ◇コロナ禍で規模縮小せざるを得ない活動が出てきたが、佐佐木信綱顕彰会と連携した取組もできた。 →短歌作り 全学年で学期に1回ずつ年3回行った。 →佐佐木信綱顕彰会短歌応募、短歌集会や信綱かるた大会は中止 →信綱かるたの朗唱開始(2学期より) →4年生は卯の花の挿し木をし、苗を佐佐木信綱顕彰歌会に配布 2 地域学習・キャリア教育 ○地域と連携し、地域人材を活用した活動を行うことができた。 1年 昔の遊び体験(3学期) 2年 地域探検・消防学校見学 3年 信綱かるた道・昔の暮らし学習 4年 卯の花の挿し木・苗配布 5年 稲刈り 子どもたちのいきいきとした姿が見られ、良い経験になった。 ●施設への訪問などはコロナ禍では難しく中止となった学習もあった。リモートでの交流や動画や写真を使っての地域学習を行った。ICTを活用してできたが、教材研究の工夫が課題となった。 3 異年齢集団で社会形成能力の育成 ◇児童集会ができなかったが、縦割り班活動は行った。 →縦割り班活動 月に1回の予定が年間4回 →児童集会なし ドッジボール大会(3学期) ○6年生は最高学年として下級生を考えて活動するよい機会となった。また、異学年の子ども同士のつながりを作ることができた。 4 コミュニティスクールの推進 ○学校運営協議会と協働することを目指した。課題の共有と解決策を考え、地域を巻き込むことができた。→協議会年6回 準備会5回 △石明協とは学校運営協議会委員長を介して連携の必要を確認した。 5 保護者・地域への発信 →学校通信の配布 月に2回程度発刊 ○★保護者アンケート「学校の保護者への情報提供」 →「はい」「どちらかといえばはい」90%	・コロナ禍の中で大変だったと思う。このような活動ができてよかった。 ・学校側はリモート学習への取組を進めていくのに、ICT環境のない保護者に対してどうしたらよいのかを考えさせられる。 ・子どもの数が減る一方なので、縦割り班での活動が多くなると思うが、子どもたちにとってはよいことだと思う。 ・高学年が低学年のお世話をするなど新たな交流が必用ではないか。 ・「学校通信」月2回発刊で学校の様子が地域の方にもよくわかったと思う。	・R3年、新型コロナウイルス感染症が落ち着いていたら、佐佐木信綱顕彰会、石明協と連携した活動や行事を行い、地域から学び、地域の方の思いに触れる教育を行う。 ・掃除、給食、地区別下校、縦割り班活動などで、6年生が1年生のお世話をするなど、6年生が中心となって交流をしている。R3年度も引き続き行う。
基本的な生活習慣・生活指導	1 基本的な生活習慣の定着 「あすなろ☆」を年間を通しての指導(あいさつ、スリッパ、なかよく、廊下歩行、チャイムを守る) →アンケート 2 いじめの未然防止、早期発見、早期対応 →いじめアンケート、自己肯定感アンケート 3 不登校を生まない取組 →欠席10日以上で確認、30日以上にならない取組 (成果と課題) 達成状況を含む 1 基本的な生活習慣の定着 ○各学級「あすなろ☆」の目標を掲げて指導した。また児童会と生徒指導とで、朝のあいさつ運動を展開した。1学期はあいさつの声が小さかったが、声を出してあいさつをする子が増えてきた。 ●地域の人や来校者、友だちにも日常的にあいさつができるようになってほしい。廊下で遊んだり走ったりする子がおり、廊下を歩いている児童が76%と低い。 ★児童アンケート「すすんであいさつをしているか」 →肯定91% ★児童アンケート「学校のきまりを守っているか」 →肯定89% ★児童アンケート「ろうかを歩いているか」 →肯定76% ★児童アンケート「スリッパをそろえているか」 →肯定90% ★児童アンケート「チャイムを守っているか」 →肯定94% ★保護者アンケート「あいさつ」 →肯定90% ★保護者アンケート「ルールや学校のきまりを守る」 →肯定90% 2 いじめの未然防止、早期発見、早期対応 ○いじめアンケートを学校独自に1回追加しいじめの早期発見、早期対応につなげられた。また自己肯定感アンケートを行い、一人ひとりを丁寧に見ていき、自己肯定感を意識した取組をすることができた。 →いじめアンケート年4回実施 自己肯定感アンケート年4回実施 ・いじめ対応については、担任だけで対応するのではなく、報連相を徹底して組織的な対応への改善を図った。 3 不登校を生まない取組 ○欠席児童へのすばやい連絡や家庭訪問を行った。また、1学期に不登校傾向で学級に入れなかった児童2名については、保護者と連携を取りながら個別対応をし、1学期中に改善に繋がった。 →欠席30日以上 0人	・判定基準がわからない。 ・朝、学校の裏門からとっても元気なあいさつの声が聞こえてくる。気持ちがいいし、うれしくなる。でも、途中の道で声をかけてもそこではなぜか返事は帰ってこない。 ・自己肯定感について、親として調べることが多く、今年度はコロナで体験・経験から学び自分の好きなこと、自信につながるなどを見つけることが難しい環境だったと思う。学校側が自己肯定感について敏感になりよく見ていただいていると思う。 ・いじめ対応については担任だけで対応していたということか。	・「あすなろ☆」の指導については引き続き、児童会と生徒指導を連携していく。 ・あいさつについては、学校通信や学年通信等で啓発していく。 ・あいさつウィークを作って、家庭、地域、友だち、先生とあいさつができたか自己チェックするようなシートを作ってあいさつができるようにする。 ・廊下走り対策として、校時の見直しを行い、児童が適切な行動がとれるように指導する。 ・いじめ対応や不登校対応は引き続き組織的な対応を行う。